

## 船舶事故調査報告書

平成21年10月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 根本 美奈

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成20年8月30日 02時00分ごろ
発生場所	北海道苫小牧港 苫小牧港東外防波堤灯台から真方位355° 730m付近（概位 北緯42° 37.3′ 東経141° 37.2′）
事故調査の経過	平成20年12月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	<p>船種船名、総トン数 遊漁船 <sup>さんすい</sup>山水丸、4.9トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 200-28107北海道、個人所有</p> <p>L×B×D、船質 15.38m(Lr)×3.13m×0.97m、FRP</p> <p>機関、出力、進水等 ディーゼル機関、356kW、平成7年12月</p>
乗組員等に関する情報	<p>船長 男性 78歳</p> <p>一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士</p> <p>免許登録日 昭和49年10月4日</p> <p>免許証交付日 平成17年3月14日</p> <p style="text-align: center;">（平成22年5月30日まで有効）</p>
死傷者等	負傷 1人（釣客：肋骨骨折）
損傷	船首部亀裂、船首材曲損、船首左舷側擦過傷及び防波堤に擦過傷
事故の経過	<p>本船は、平成20年8月29日16時00分ごろ、船長1人が乗り組み、釣客5人を乗せ、苫小牧港第2区を発し、北海道白老町沖で遊漁の後、霧中の同港へ帰航中、翌8月30日02時00分ごろ、港口の苫小牧港西港第2区西防波堤の北東側（港内側）にほぼ直角に衝突した。</p> <p>衝突の衝撃で、船首甲板にいた釣客1人が転倒して肋骨骨折の負傷をし、本船は自力で航行して係留地に帰港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 霧、風向 北北東、風力 1、視界 不良</p> <p>海象：平穏</p> <p>特記事項：濃霧注意報発表中</p>
その他の事項	<p>事故後、船長は釣客（複数）に対し、灯台を間違ってしまった旨述べていたが、船長からは、この点について口述を得られなかった。</p> <p>港口にある苫小牧港西防波堤灯台（以下「港口の灯台」という。）、及び係留地の漁港区入口にある苫小牧港漁港区南防波堤灯台（以下「係留地の灯台」という。）の灯光は、いずれも緑光であった。</p>

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 船長は、港口の灯台を、係留地の灯台と誤認した可能性があると考えられる。 船長は、霧中の港内に向けて航行する際、GPSプロッター及びレーダーを活用せず、船位の確認を適切に行わなかった可能性があると考えられる。しかしながら、船長が、事故当時の状況について記憶が明確でないため、その経過を明らかにすることができなかった。
原因	<p>本事故は、夜間、本船が霧中の苦小牧港内を航行する際、港口の灯台を係留地の灯台と誤認したため、防波堤に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。</p> <p>本船が、港口の灯台を係留地の灯台と誤認したのは、船長がGPS及びレーダーを活用せず、船位の確認を適切に行わなかったことによる可能性があると考えられる。</p>	